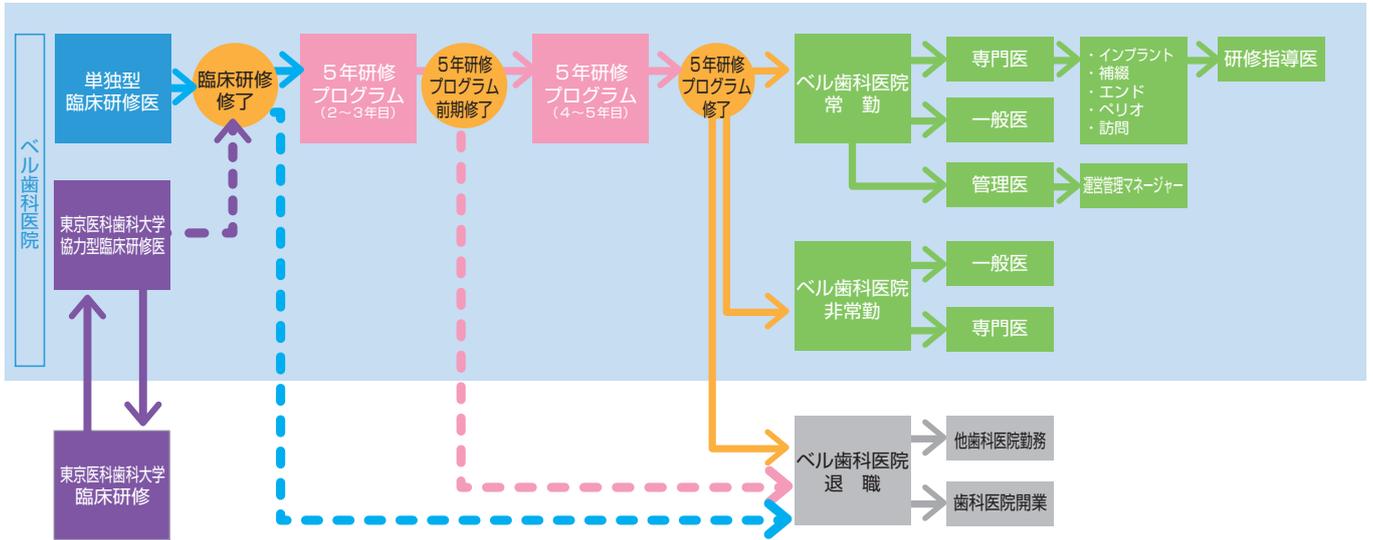


キャリアパス

詳しくは P.31 です



■ 単独型臨床研修医

対象者	期間	ゴール	研修内容	定員	身分
第115回 歯科医師 国家試験合格者	1年	「予防＋治療型」歯科診療の概念を理解し、その基本的な処置を行うスキルを習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・院長講義 ・ドクター研修 ・診療補助 ・診査、診断、治療計画作成 ・基本的な保存治療 ・基本的な補綴治療 ・基本的な予防処置 ・病院実習 等 	2名	国が定める 臨床研修医

■ 協力型臨床研修医

対象者	期間	ゴール	研修内容	定員	身分
第115回 歯科医師 国家試験合格者 ※東京医科歯科大学の 選考でマッチングし た者	6ヶ月	単独型と同じ	単独型研修に準じるが、期間は6ヶ月のため、その一部となる	前期 1名 後期 1名	国が定める 臨床研修医 国が定める 臨床研修医

■ 5年研修プログラム

対象者	期間	ゴール	研修内容	定員	身分
ベル歯科医院で 1年間の臨床研修を 終了した者	4年 協力型から編入した 場合は 4.5年	「予防＋治療型」歯科診療の概念に基づいた診療計画を立案、処置を担当するとともに歯科衛生士によるメンテナンスの管理を行うことができるスキルを習得する。	総合的な保存、補綴、口腔外科治療、予防処置（メンテナンス）の診査・診断・計画作成・処置・再評価 歯科診療を行う上での医院マネジメント	各年次 1～2名	常勤歯科医師

令和4年度 ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム (単独型)

I. 理念

歯科学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、卒前教育で学んだ基本的な診療能力（態度、技能および知識）を定着し、それらを一体化してさらに高度な診療能力を身につけ、生涯研修の必要性を認識し、健康増進に寄与する歯科医療を提供できる、人格を含めて国民の期待に応える資質の高い医療人を養成することを目的とする。

II. 研修プログラムの特徴

歯科医療の目標は、生涯にわたる口腔の機能性、審美性維持を実現することである。

ベル歯科医院	「予防+治療型」歯科診療を研修することにより、う蝕・歯周病・咬合の機能、審美の回復と維持に関する知識と技能の修得
海老名総合病院 (研修協力施設)	口腔外科・全身管理・救急処置・摂食嚥下
特別養護老人ホーム (研修協力施設)	在宅診療

III. 研修のねらい

- ① 歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者および家族とのよりよい人間関係を確立する。
- ② 全人的な視点から得られたさまざまな医療情報を理解し、それに基づいた総合治療・予防計画を立案する。
- ③ 歯科疾患と障害の予防および治療における基本的技能を身につける。
- ④ 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- ⑤ 歯科診療時の全体的偶発事故に適切に対応する。
- ⑥ 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
- ⑦ 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けを高める。
- ⑧ 歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

IV. 研修の目標

A 歯科医師としての 基本的価値観 （プロフェッショナリズム）	1		社会的使命と 公衆衛生への寄与		社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
B 資質・能力	1	医学・医療における倫理性	診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。	① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。 ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。 ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。 ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。 ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	
	2	歯科医療の質と安全の管理	患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。	① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。 ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。 ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。 ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。 ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。	
	3	医学知識と問題対応能力	最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。	① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。 ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。 ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。 ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。	
	4	診療技能と患者ケア	臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。	① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。 ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。 ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。 ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ滞りなく作成する。	
	5	コミュニケーション能力	患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。	① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。 ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。 ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。	
	6	チーム医療の実践	医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。	① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。 ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。	
	7	社会における歯科医療の実践	医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。	① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。 ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。 ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。 ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。	
	8	科学的探究	医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。	① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。 ② 科学的研究方法を理解し、活用する。 ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。	
	9	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師、医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。	① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。 ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。 ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。	

C 基本的診療業務	1	基本的診療能力等	(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画	① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。 ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。 ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。 ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。 ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。 ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。
			(2) 基本的臨床技能等	① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。 ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。 a. 歯の硬組織疾患 b. 歯髓疾患 c. 歯周病 d. 口腔外科疾患 e. 歯質と歯の欠損 f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下 ③ 基本的な応急処置を実践する。 ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。 ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。 ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
			(3) 患者管理	① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。 ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。 ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。 ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。 ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
			(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供	① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。 ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。 ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。 ④ 障害を有する患者への対応を実践する。
	2	歯科医療に関連する連携と制度の理解等	(1) 歯科専門職間の連携	① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。 ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。 ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。
			(2) 多職種連携、地域医療	① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。 ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。 ③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。 ④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。 ⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。（選択） ⑥ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。 ⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。 ⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。
			(3) 地域保健	① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。 ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。 ③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。 ④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。
			(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。 ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。 ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

V. 研修期間

研修期間は令和4年4月1日から令和5年3月31日の1年とする。

VI. 研修施設の概要

① ベル歯科医院（単独型臨床研修施設）

所在地	神奈川県海老名市中央1-20-43
臨床研修施設長	鈴木 彰
プログラム責任者	鈴木 彰（研修管理委員会委員長）
副プログラム責任者	大澤次郎
臨床研修指導医	鈴木 彰、大澤次郎
事務部門の責任者	佐久間美都

② 海老名総合病院（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市河原口1320
研修実施責任者	石井良昌（歯科口腔外科部長）
臨床研修指導医	石井良昌
事務部門の責任者	浅井陽子

③ 特別養護老人ホーム 陽だまり（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市社家505番地
研修実施責任者	安ヶ平宏昌（施設長）

④ 特別養護老人ホーム 和心（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市大谷南3-20-15
研修実施責任者	金子直浩（施設長）

⑤ 特別養護老人ホーム さつき（研修協力施設）

所在地	神奈川県海老名市河原口1383
研修実施責任者	小林由貴子（施設長）

VII. 研修歯科医の指導体制

- ① ベル歯科医院での診療研修では、担当患者の診療計画立案時、各診療前、各診療後に指導歯科医が確認を行い、診療中には必要に応じて即時に指導対応する。
- ② 週1回以上担当患者のカンファレンス、実技指導、文献輪読等の指導を行う。
- ③ 研修協力施設では、指導歯科医が診療前、診療中、診療後に必要に応じて指導対応する。
- ④ プログラム責任者は定期的に指導歯科医会議を開催し、研修状況を確認する。

VIII. 研修プログラムの内容

【プログラム名称】

ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム

① ベル歯科医院

期間	令和4年4月～令和5年3月（12ヵ月）
内容	患者（新患または前研修医からの引き継ぎ）の配当を受け、担当医制で総合診療研修を行う。口腔外科、矯正科等の専門医のアシスト研修およびその指導下での担当患者の診療を行う。
分野	【別表1】参照

② 海老名総合病院歯科口腔外科

期間	令和4年9月～ 令和5年3月の平日1日/週（合計12日間）
内容	口腔外科（外来、入院、手術）、全身管理、救急処置、摂食嚥下、病診連携のアシスト研修あるいは診療研修を行う
分野	【別表1】参照

③ 特別養護老人ホーム 陽だまり

期間	令和4年4月～令和5年3月（合計3日間）
内容	訪問診療患者の歯科治療（応急処置、高頻度治療、口腔ケア、全身管理）のアシスト研修あるいは診療研修を行う
分野	【別表1】参照

④ 特別養護老人ホーム 和心

期間	令和4年4月～令和5年3月（合計3日間）
内容	訪問診療患者の歯科治療（応急処置、高頻度治療、口腔ケア、全身管理）のアシスト研修あるいは診療研修を行う
分野	【別表1】参照

⑤ 特別養護老人ホーム さつき

期間	令和4年4月～令和5年3月（合計3日間）
内容	訪問診療患者の歯科治療（応急処置、高頻度治療、口腔ケア、全身管理）のアシスト研修あるいは診療研修を行う
分野	【別表1】参照

IX. 研修の評価と修了認定

① 研修歯科医の評価

1. 臨床基本研修

- (ア) 研修プログラムで規定した研修症例をポートフォリオに記載する。評価基準はポートフォリオの項目及び内容がすべて記載されていることとする。
- (イ) オリエンテーション、研修歯科医セミナー、院

外で実施される各種講習会への出席を評価する。

- (ウ) 外部研修では報告書を提出し、研修プログラム責任者が評価する。

2. 研修協力研修施設での研修

外部研修協力施設では、研修実施責任者が出席、研修態度、研修習熟度、研修達成度を評価する。

3. 総合診療研修

- (ア) 診療に当たっては、指導歯科医の元、各診療で定められた手順に従って診療を進める
- (イ) 指導歯科医は、研修歯科医の研修態度、習熟度、達成度を把握し、随時助言、指導を行う。
- (ウ) 研修の第1段階では、診療ステップ毎に指導歯科医のチェックを受けて診療を進める
- (エ) 研修の第2段階では、診療日ごとに指導歯科医のチェックを受けて診療を進める
- (オ) 研修の第3段階では、研修歯科医は症例終了毎に指導歯科医へ報告を行う。
- (カ) 指導歯科医は、症例報告時に評価項目実施の有無認定、品質評価を行い、適切と判断した症例を認定する。
- (キ) 研修歯科医は、各研修内容で認定症例数が修了判定時まで必要症例数を超えるよう総合診療研修を計画的に行わなければならない。

4. 総合診療研修の修了認定に必要な症例数および評価項目（【別表1】参照）

② 修了認定

1. 臨床研修管理委員会で研修態度および研修内容を総合的に評価する
2. 厚生労働省の修了判定基準をもとに院長が修了認定の可否を判定する。
3. プログラムの目標に到達したと評価された研修歯科医には、院長より研修修了証が交付される。

③ 臨床研修の中断

1. 中断とは、あらかじめ定められた研修期間の途中で臨床研修を中止した場合をいう。
2. 医院側の中断理由は、次の場合である。
 - (ア) 当該臨床研修施設の廃院・指定取消の場合
 - (イ) 研修歯科医が臨床研修医としての適正を欠き、改善が不可能な場合
 - (ウ) その他正当な理由がある場合で、研修歯科医の研修継続が困難と研修管理委員会が評価、勧告した場合
3. 研修歯科医側の中断理由は、次の場合である。
 - (ア) 研修歯科医から管理者へ、妊娠・出産・育児・傷病等で長期休止を申し出て、修了に必要な日数を満たせない場合
 - (イ) 研修、留学等の多様なキャリア形成のため研修を中止する場合
 - (ウ) その他正当な理由がある場合

④ 臨床研修の未修了

1. 未修了とは、臨床研修医の研修期間の終了に際する評価において、修了基準を満たしていない場合をいう
2. 修了認定に必要な研修実施期間は傷病、妊娠、出産、育児、その他の正当な理由（研修プログラムで定められた年次休暇を含む）での休止期間が1年間を通じて45日以内（研修施設において定める休日を含めない）である。45日を越える場合は、未修了となる
3. 未修了者は引き続き同一の研修プログラムで研修を行うことが前提となる
4. 当該研修歯科医が到達すべき研修認定日数に達し、かつ修了認定を受けた場合は、個別の終了日により修了証を交付する。

令和 4 年度ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム		単独型施設 ベル歯科医院	研修協力施設 海老名総合病院	臨床協力施設 和心など	
1... 基本的診療能力等	(1) 基本的診療計画	① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	○	○	
		② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	○	○	
		③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	○	○	
		④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	○	○	
		⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	○	○	
		⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	○	○	
	(2) 基本的臨床技能等	① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	○	○	
		一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。	○	○	
		a. 歯の硬組織疾患	○	○	
		b. 歯髄疾患	○	○	
		c. 歯周病	○	○	
		d. 口腔外科疾患	○	○	
	e. 歯質と歯の欠損	○	○		
	f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	○	○		
	③ 基本的な応急処置を実践する。	○	○		
	④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	○	○		
	⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	○	○		
	⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	○	○		
	(3) 患者管理	① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	○	○	
		② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	○	○	
③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。		○	○		
④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。		○	○		
⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。		○	○		
(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供	① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	○	○		
	② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	○	○		
	③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	○	○	○	
	④ 障害を有する患者への対応を実践する。	○	○	○	
2... 歯科医療に関連する連携と制度の理解等	(1) 連携	① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	○	○	
		② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	○	○	
		③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	○	○	
	(2) 多職種連携、地域医療	① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	○	○	○
		② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	○	○	○
		③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。	○	○	○
		④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	○	○	○
		⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。	○	○	○
		⑥ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	○	○	○
		⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	○	○	○
		⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。	○	○	○
	(3) 地域保健	① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	○	○	○
		② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	○	○	○
		③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。	○	○	○
		④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。	○	○	○
	(4) 連携する制度の理解	① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	○	○	○
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。		○	○	○	
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。		○	○	○	

X. 管理・運営

- ①ベル歯科医院歯科医師臨床研修管理委員会（以下臨床研修委員会）を設置する
- ②ベル歯科医院における臨床研修の管理・運営は、臨床研修委員会のもとで行う。
- ③研修協力施設の管理・運営は、臨床研修委員会が必要に応じて助言、支援をする。

XI. 募集および採用方法

(1) 応募資格

- ・令和4年3月に歯学部卒業見込者または歯学部既卒者で、第115回歯科医師国家試験を受験する者
- ・本院は歯科医師臨床研修マッチングプログラムに参加する予定であるため、歯科医師臨床研修マッチング協議会が行うマッチングに参加登録予定の者

(2) 募集定員

2名

(3) 研修期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日の1年間

(4) 処遇等

職名	臨床研修医
常勤・非常勤の別	常勤
給与	日額 10,000円
時間外・休日手当等	なし
勤務時間	(月・火・水・金) 午前9時30分～午後7時20分
	(土) 午前9時30分～午後6時20分
	但し、研修医が自主的に行う研修についてはこの限りではない
休日	日曜日、木曜日、祝祭日
休暇	勤務6ヵ月以上で有給休暇10日
宿舎	あり
病院内控室	あり
健康保険	神奈川県歯科医師国民健康保険へ加入
年金	厚生年金へ加入
労災保険	適用あり
雇用保険	適用あり
健康管理	健康診断を年1回実施
歯科医師賠償責任保険	個人として加入義務あり
外部研修活動	学会等への参加可、費用は原則自己負担

(5) 研修歯科医の研修専念義務

①歯科医師法第16条の2

診療に従事しようとする歯科医師は、1年以上、歯学若しくは歯学を履修する課程を置く大学に附属する病院（歯科医業を行わないものを除く）又は厚生労働大臣の指定する病院若しくは診療所において、臨床研修を受けなければならない。

②歯科医師法第16条の3

臨床研修を受けている歯科医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上に努めなければならない。

③上記歯科医師法の規定により、研修歯科医は臨床研修に専念する義務が課せられており、研修期間中のアルバイト等を行うことはできない。

(6) 応募手続

応募書類	マッチングに参加を前提の上、以下の書類をベル歯科医院に持参するか、書留郵便にて提出のこと (ア) 履歴書（所定の用紙へ記入する） (イ) 卒業（見込）証明書 (ウ) 成績証明書 （各自の出身大学により封印されたもの） (エ) 健康診断書 (オ) HBs 抗原及び抗体検査結果
提出先	ベル歯科医院 〒243-0432 神奈川県海老名市中央 1-20-43
出願期間	令和3年6月1日～8月31日

(3) 選考について

選考日	令和3年8月2日～9月30日の指定する日 (応募時に決定)
選考場所	ベル歯科医院 (選考の詳細な時間等は応募者へ直接連絡する)
選考方法	面接、筆記試験（歯科臨床）、論文提出（テーマは応募受理時に応募者へ直接連絡する）

(4) 採用について

①マッチング組み合わせ決定(令和3年10月19日)により仮採用

仮採用時に、本採用決定後に提出する書類（用紙）を交付する

②第115回歯科医師国家試験の結果、合格者のみ本採用

③本採用された者は、仮採用時に交付した書類に記入の上、指定日までに提出して採用手続を行うこと

(5) その他

①当院は、歯科医師臨床研修マッチング協議会が行う令和3年度歯科医師臨床研修マッチングプログラムに参加するため、令和3年6月15日～8月3日に歯科医師臨床研修マッチング協議会（D-REIS）のホームページマッチング参加登録を行うこと。

②応募書類は、理由の如何に関わらず返還しない。

③ベル歯科医院は東京医科歯科大学の協力型臨床研修施設である。東京医科歯科大学でのマッチングの結果、当院が研修施設となった場合の研修期間は6ヵ月である。

(6) 問い合わせ先・資料請求先

ベル歯科医院
〒243-0432 神奈川県海老名市中央 1-20-43

TEL	046-234-7500
FAX	046-231-9905
e-mail	info-bell@bell-dental.com
ホームページ	www.bell-dental.com
担当者	佐久間

問合せ

【電話】046(234)7500

【メール】info-bell@bell-dental.com

【担当者】佐久間

■電話対応時間

月・火・水・金	10:00～19:00
土	10:00～18:00

令和4年度 ベル歯科医院歯科医師臨床研修プログラム 【協力型・東京医科歯科大学】

研修プログラム

「令和4年度東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科臨床研修プログラム」を参照してください。

募集について

□応募資格

- ・ 令和4年3月に歯学部卒業見込者または歯学部既卒者で、第115回歯科医師国家試験を受験する者
- ・ マッチングの結果、東京医科歯科大学歯学部附属病院での臨床研修プログラム1へ仮採用された者

□募集定員

- ・ 後期1名

研修期間および施設

(後期) 令和4年10月1日～令和5年3月31日の6カ月間
プログラム1B

(前期) 東京医科歯科大学

(後期) ベル歯科医院

応募・選考・採用について

「令和4年度東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科臨床研修プログラム」をご覧ください

処遇

本冊子(P.06頁)を参照してください。

特記事項

- ・ ベル歯科医院は東京医科歯科大学の協力型臨床研修施設である。
- ・ 東京医科歯科大学の協力型研修期間は6ヵ月である。
- ・ 各大学協力型臨床研修の内容は、ベル歯科医院歯科臨床研修プログラム(単独型)に準ずるが、研修協力施設(海老名総合病院他)での研修は実施しない。

詳細は P.02 をご覧ください



5年研修プログラム

ベル歯科医院5年研修プログラムとは

臨床歯科医を 養成する プログラム

世界的に見て臨床歯科医養成のプログラムが最も整備されている国は米国です。

米国では歯学部を卒業したあと、専門医の資格を取得したい歯科医師向けに大学院が整備されています。大学院では補綴、インプラント、エンド、矯正など各診療科目別に2～4年間診療に専念させ、所定の症例数、診療結果を満たした上で、試験に合格すると専門医に認定される仕組みとなっています。

日本の大学院では主に研究と論文作成を行います。目標は、学会で論文が受理されて学位を取得することです。研究を重視しているため、米国の臨床医向け大学院に比べて臨床技能の訓練に時間を割くことができません。

臨床技能を修得したい歯科医師にとって、日本でも米国並みの研修環境が求められています。歯科医療分野においてもそのような環境を整備することは重要な課題です。

ベル歯科医院は、2010年に厚生労働省より単独型研修施設として認定されたことを機に、米国の大学院プログラムを参考に2011年より5年研修プログラムを創設することにしました。

目標は、5年間で日本国内はもちろん、海外の臨床歯科医師にも引けを取らない水準の臨床歯科医師へ育てることです。

なぜ 5年間なのか

臨床歯科医師である限り、研修期間は現役時代ずっと続きますが、区切りが必要です。

第一目標は最初の1年間、第二目標はその後の4年間が適切であると考えます。

ベル歯科医院のプログラムは、厚生労働省が義務づけた1年間の歯科医師臨床研修プログラムからスタートします。その修了後の4年間は、勤務医として在籍しながら引き続き研修を行います。

5年間は、臨床技能の修得に必要な十分な時間であり、年齢的にも30歳前後（24～25歳で大学卒業した場合）で節目を迎える時期です。このプログラムで5年間の研修を行った歯科医師は、期待通りの成果を得ることができています。

▶ P.29 「5年研修プログラム修了者」

■ 1年目の詳細は P.09 ～ P.16 をご覧ください

■ 2年目～5年目の詳細は P.17 ～ P.34 をご覧ください

1年目 歯科医師臨床研修 プログラム

Training program

臨床歯科医師になるために



歯科医師臨床研修

歯科医師臨床研修の1年間は、専門知識を臨床経験に結びつける期間である。

当院研修医の到達目標は、1つ目に主訴への応急・暫間処置ができるようになること、2つ目に主訴以外の問題点を発見し、問題解決へ患者を誘導すること、3つ目に基本的な予防処置をできるようにすることである。

初診患者の診療

初診で来院する患者の主訴は、15種類に集約できる(表1)。この主訴に対して、まず的確な問診と診査を行う。その結果から診断名を決定。初診当日中に応急処置で疼痛緩和、最低限の機能回復を行う。来院2日目以降は、急性症状等の消退が確認できたら数回の通院で暫間処置により当面の機能回復を図る。これが臨床研修医の第1の課題である。当院の臨床研修医は、1年間で初診患者150名、担当患者400名の診療を行っている。

主訴で来院した患者は、主訴以外にも口腔内や顎咬合系に問題点を抱えていることが多い。本人が気づいている第2・第3主訴もあるが、自覚症状がないために問題点を認識していない場合も少なくない。臨床研修医の2つ目の課題は、問診や検査からこれらの問題点を発見し、「Problem List (問題点リスト)」を作成することである。続いてゴール設定・治療計画立案・選択肢の提示・患者の選択を経て患者を問題解決へ誘導する(表2)。この課題は研修医自身の知識・経験を駆使する必要があり、非常にハードルが高い。しかし、専門医や上級の研修医の力を借りながら挑戦することで実力をつけていくことができる。





予防診療

予防処置からは治療とは異なった効果を得ることができる。細菌数減少・歯肉炎のコントロール・歯面の再石灰化・う蝕の進行抑制などの効果だ。この処置を行うのは主に歯科衛生士である。歯科医師は自ら行う機会が少ないために、予防処置の効果を知らずに治療で片付けようとする傾向がある。それを避けるために、当院では研修医1年目にPTC・PMTC・ポケット内洗浄・フッ化物塗布・セルフケア指導・キシリトール摂取指導などの予防処置を担当し、その効果を体験するプログラムを組み入れている。この経験は、治療計画と予後予測の能力を高めるために大変有効である。

I 理念

歯科医師の業務範囲は、臨床（診療）・研究・教育・公衆衛生に分けられます。中でも臨床は歯科医師の中心的業務であり、多くの歯学生は臨床家を目指しているでしょう。

当院の歯科医師臨床研修（単独型1年間）では、臨床業務能力の向上に焦点を当てています。

表1 初診患者の15主訴

- ① 補綴物脱離
- ② C2(永久歯の象牙質う蝕)
- ③ 小児C2(乳歯の象牙質う蝕)
- ④ 知覚過敏
- ⑤ C3(永久歯の歯髄炎)
- ⑥ 小児のC3(乳歯の歯髄炎)
- ⑦ 歯周病急発
- ⑧ Per(根管の慢性病変・急性病変)
- ⑨ 歯冠破折、歯根破折
- ⑩ 義歯不適合
- ⑪ 智歯周囲炎、埋伏歯病変
- ⑫ 健康診査
- ⑬ 顎関節症
- ⑭ 不正咬合
- ⑮ 粘膜病変

表2 問題解決へのプロセス

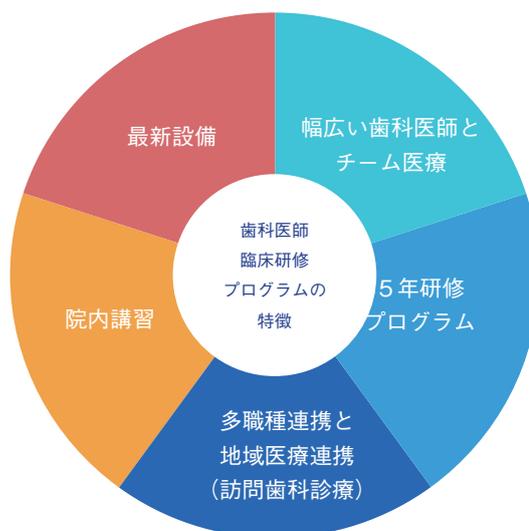
- ① 問診、診査、各種検査
- ② ゴールの立案
- ③ 治療計画立案：
治療、経過観察、予防を組み合わせた複数案の作成
- ④ ゴール、計画のプレゼン、
選択肢の提示
- ⑤ 患者自身の選択
- ⑥ 処置の実行
- ⑦ 再評価：必要に応じてゴール、
計画の再検討、修正
- ⑧ 処置の継続
- ⑨ ゴールの達成
- ⑩ メンテナンス継続：
口腔健康の長期維持

II 歯科医師臨床研修プログラムの特徴

歯科医療の目標は、生涯にわたる口腔の機能性、審美性維持を実現することである。

ベル歯科医院で、「予防+治療型」歯科診療を研修することにより、う蝕・歯周病・咬合の機能、審美回復と維持の知識と技能を修得することができる。

研修協力施設では、口腔外科・全身管理・救急処置・摂食嚥下・在宅診療を体験することができる。



III 研修のねらい

- 1 歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者および家族とのよりよい人間関係を確立する。
- 2 全人的な視点から得られたさまざまな医療情報を理解し、それに基づいた総合治療・予防計画を立案する。
- 3 歯科疾患と障害の予防および治療における基本的技能を身につける。
- 4 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- 5 歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
- 6 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
- 7 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けを高める。
- 8 歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

V 研修の期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日の1年間

■単独型臨床研修医

対象者	第115回 歯科医師国家試験合格者
期間	1年(令和4年4月1日～令和5年3月31日)
ゴール	「予防+治療型」歯科診療の概念を理解し、その基本的な処置を行うスキルを習得する。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 院長講義 ● 診療補助 ● 基本的な保存治療 ● 基本的な予防処置 ● ドクター研修 ● 診査、診断、治療計画作成 ● 基本的な補綴治療 ● 病院実習 等
定員	2名
身分	国が定める臨床研修医

■協力型臨床研修医

対象者	第115回 歯科医師国家試験合格者 ※東京医科歯科大学の選考でマッチングした者
期間	6ヶ月(令和4年10月1日～令和5年3月31日)
ゴール	単独型と同じ
研修内容	単独型研修に準じるが、期間は6ヶ月のため、その一部となる
定員/身分	後期1名 国が定める臨床研修医

Ⅳ 研修の目標

令和4年度ベル歯科医院 歯科医師臨床研修プログラム		研修対象・分野・症例	研修項目	到達目標 症例数 [患者数] (回数)	最終目標 症例数 [患者数] (回数)			
1 基本的診療能力等	① 基本的診療能力等	① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。						
		② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	[A] 初診患者	医療面接から説明・確認までを制限時間内に行う	[50名]	[30名]		
		③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。						
		④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。						
		⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	[B] 歯科疾患管理で定期的に通院している患者	医療面接から説明・確認までを制限時間内に行う	[50名]	[30名]		
		⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。						
	② 基本的臨床技能等	② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。	① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	[B] 歯科疾患管理で定期的に通院している患者	指導、PMTC、フッ化物塗布	[10名]	[5名]	
			a. 歯の硬組織疾患	臼歯Ⅰ級、Ⅱ級、前歯Ⅲ級、Ⅳ級のCR充填(直接法)	術前診査・う蝕処置・充填処置・術後評価	50	30	
			b. 歯髄疾患	抜髄または再根管治療	X線診査、前処置、根管形成、根管充填、術後評価	10	5	
			c. 歯周病	歯周基本治療(初期治療)終了まで	診査(X線、口腔内写真を含む)、診断、計画、初期治療(SRP、PMTC、超音波洗浄を含む)、再評価	[10名]	[5名]	
			d. 口腔外科疾患	普通抜歯、難抜歯、インプラント埋入術	口腔外科処置第1助手	10	5	
				普通抜歯、難抜歯、インプラント埋入術	口腔外科術後処置	10	5	
				普通抜歯	診査、診断、計画、説明、抜歯、術後評価	10	5	
				クラウン(間接法)	診査、診断、計画、形成、印象、試適、装着、術後評価	10	3	
				レジン床義歯・新規制作	診査、診断、計画、前処置、制作、調整、装着、術後調整、術後評価	3	1	
				レジン床義歯・修理	診査、診断、計画、処置、術後評価	3	1	
				矯正治療症例	診査、分析	10	5	
				オーラルフレイル症例	検査、説明、指導	10	5	
				矯正診療補助	処置の第1助手、診療ステップの一部担当	10	5	
				③ 基本的な応急処置を実践する。	1 (1) [A] 初診患者	診査・診断・応急処置を行う	50	30
③ 患者管理	③ 患者管理	④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	診療前・診療中・診療後に行う	30	10		
		⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	診療前・診療中・診療後に行う	100	60		
		⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	インシデント報告の作成	10	1		
		① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	患者へ説明を行う	20	10		
		② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	主治医への照会を行う	10	3		
		③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	治療前・中・後に行う	20	10		
		④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	1 (1) [A]/[B]、1 (2) ② a~e 症例患者	治療中・後に行う	3	1		
		⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。	1 (2) ② a~e 症例患者	術前・術後に行う	3	1		
		④ 状態の悪化をきたした時医療の連携	④ 状態の悪化をきたした時医療の連携	① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	1 (1) [B] 歯科疾患管理で定期的に通院している患者		50	30
				② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	1 (1) [B] 歯科疾患管理で定期的に通院している患者		50	30
③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	訪問診療患者の診療補助			処置の第1助手	20	10		
④ 障害を有する患者への対応を実践する。	訪問診療患者の保存、補綴処置			診療助手との連携、患者とのコミュニケーション、現場での判断力	3	1		
2 歯科医療に関連する連携と制度の理解等	① 専門職の連携	① 歯科技工士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	[B] 歯科疾患管理で定期的に通院している患者で行う		30	10		
		② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	(2) ② e 症例患者で行う		10	5		
		③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	1 (3) ⑤、1 (4) ② 症例患者で行う		10	5		
		② 多職種連携、地域医療	② 多職種連携、地域医療	① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。			3	1
				② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。				
				③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う			
				④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う			
				⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う			
				④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う			
				⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う			
				⑥ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う		3	1
				⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	1 (3) ⑤、1 (4) ③ 症例患者で行う		3	1
				⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。	1 (3) ⑤ 症例患者で行う		3	1
		③ 地域保健	③ 地域保健	① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。				
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。								
③ 保健所等における地域歯科保健活動を体験する。	行政や歯科医師会が主催する行事に参加する				(3回)	(1回)		
④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。	学校等での歯科健診に参加し、業務の一部を担当する				(3回)	(1回)		

VI 歯科医師臨床研修プログラムの内容

現場での歯科診療をはじめ、カンファレンスや地域連携など、様々な場面で学ぶ環境が整っています。担当患者の診療のほか、院長・口腔外科・矯正専門医の診療補助も担当。訪問歯科の同行もスケジュールに組み込まれています。単独型プログラムでは、例年9月～12月の木曜日に研修協力施設である海老名総合病院で口腔外科実習が行われます。

ベル歯科医院内

■矯正診療 [月3回]



■口腔外科 [月1回]



■カルテチェック [毎日]



■訪問歯科診療

【診療日数】20日/月
 【標準診療時間】9:30～17:00
 【診療延べ患者数】180人/月
 【1日あたり】10～17人/日

歯科医師（常勤・専属）： 1名
 歯科助手（常勤・兼務）： 交代で1名
 歯科衛生士（パート・専属）： 1名
 訪問事務（パート・専属）： 1名



外科カンファレンス



矯正カンファレンス

外科カンファレンス

・月曜 14:00～（月1回）
 主に診断と治療計画について討議する

矯正カンファレンス

・火曜 14:00～（月1回）
 主に矯正治療開始時期と治療内容について討議する

地域医療連携

■海老名市歯科医師会会員としてイベントに参加



VII 受入と進路

臨床研修歯科医師の受入れは常にゆとりを持たせています。ベル歯科医院での歯科医師臨床研修が、より濃くなるように指導環境をしっかりと整えています。

修了後の進路もサポートし、将来設計について一緒に考えていきます。

臨床研修歯科医の定員と受け入れ人数

■単独型臨床研修医

研修年度	選考年	定員	応募	内定	採用	編入
2021年度	2020年	2	9	2	2	0
2020年度	2019年	2	9	2	2	0
2019年度	2018年	3	8	3	1	0
2018年度	2017年	3	4	3	3	0
2017年度	2016年	2	3	2	2	0

■協力型臨床研修医

研修年度	前期	後期	年間
2021年度	0	0	0
2020年度	0	0	0
2019年度	0	1	1
2018年度	0	1	1
2017年度	0	1	1

研修修了後の進路

■単独型臨床研修医

研修年度	5年研修プログラム 2年次	他診療所 勤務	大学へ	中断
2020年度	1	1	0	0
2019年度	0	0	1	0
2018年度	1	2	0	0

■協力型臨床研修医

研修年度	5年研修プログラム 2年次	他診療所 勤務	大学へ	中断
2020年度	0	0	0	0
2019年度	0	0	1	0
2018年度	0	1	0	0

過去の臨床研修医 在籍一覧

■単独型臨床研修医

年度	出身大学	性別
2021年度	東京医科歯科大学	男
	長崎大学	男
2020年度	長崎大学	男
	日本歯科大学	女
2019年度	東北大学	女

■協力型臨床研修医

年度	出身大学	性別
2021年度	なし	—
2020年度	なし	—
2019年度	鹿児島大学	女



ベル歯科医院臨床研修を行った

研修医の声

歯学部6年生にとって、卒業後の臨床研修先は自分自身の進路を決める上で大きな選択です。当院での臨床研修を考えている学生の多くは、大学6年の夏休みに見学で来院しています。活動の早い学生は、5年時から見学という例もあります。現場を見学して5年プログラムへの進路を決めた先輩の声を以下に紹介します。募集期間は8月31日まで（P.06参照）なので、締切日にご注意ください。



青木 暢 Ta

出身：神奈川県
経歴：長崎大学卒業
趣味：旅行・焼き物コレクター

いつでも 相談できる人が そばにいる安心感

パンフレットを見て研修プログラムの内容の濃さに感銘。「ここなら充実した勉強ができそう」と考え見学したのが、ベル歯科医院との出会いでした。見学の感想は、「歯科医師の姿勢がいい!」。診療室で患者さんと向き合う歯科医師たちの様子に、教育が行き届いていることを確信したといいます。入社して9カ月経ったいま、「思っていた以上に忙しいです。患者さんの数が多いのはもちろん、お一人お一人について治療計画をたて、カルテを読み込み、先輩に報告・相談するなど、やるべきことが山のようにあるので、それらをこなしていくだけでも大変です」と、正直な印象を語る青木歯科医師。これまでに担当した患者さんの数は約400名になりました。

ベル歯科医院での臨床研修は、患者さんを診療室に案内するところから始まりました。そして、診療ユニットの高さや患者さんの首の位置の調整、それに対する歯科医師のポジションを決めるポイントなどを細かく確認。こうした準備をマスターしたうえで、保険診療の患者さんの定期健診に着手し、しだいに治療も担当するようになりました。

一連の指導を主に担当してくださっているのは、3年目と4年目の2名の先輩ですが、もっと上のベテラン歯科医師や院長に直接相談することもいつでもできます。先輩には、予め翌日の診療について報告し助言を頂き、当日の診療後に再度報告して助言をもらいます。診療中に困ったことがあると、先輩のもとへ行って相談することもしばしばです。

「患者さんによって状態は千差万別で、毎回のように新しいことに基づく

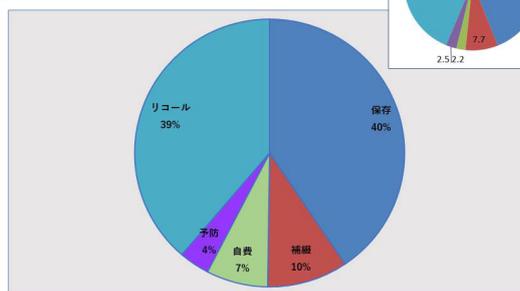
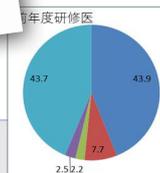
一年間の取り組み

臨床研修 報告

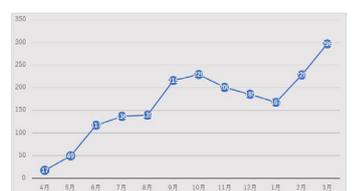


① 診療実績

	長崎大学研修医	ベル歯科研修医 青木
診療回数	120回	1978回
I日平均患者数	0.5人	8.6人
新患者数	0人	133人



月間診療回数の推移



研修医のレポート

かります。そのつど先輩に相談するのですが、必ずその場でサポートを頂けるのが本当にありがたいし、安心感につながっています]

どんな患者さんにも 対応できる力を つけたい

青木歯科医師がベル歯科医院に来てはじめて知ったことに、「予防」があります。「治療するだけでなく、どうして治療しなければならない状態になったのかを患者さんと一緒に考え、話していくうちに、患者さんの意識が

変わってきて、定期的に通院して良い状態を保つことができるようになります。こんなことは大学では習っていなかったのですごく印象的でした」と話します。

新型コロナウイルス感染症の流行に際しては、受診者数が減って時間に余裕ができた分、患者教育のための動画をYouTubeにアップする、これまでに診た患者さんについて振り返るなど、日頃できないことに院長の指導のもとで取り組み、有意義に過ごすことができました。

今後の目標は、どんな患者さんが来ても、しっかりした治療計画をたて、誰にも頼らずに最後まで自分で対応できる力を付けること。「入職当時に比べればできることが増えてきていますし、不安も解消されてきました。もっと力をつけていけるように努力したいと思います」と、気を引き締めています。

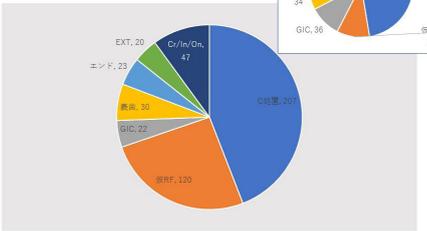
これから研修施設を探す人に対しては、「1年目にどこで研修するかで経験できることは大きく変わってきます。だからこそ真剣に選ぶべき。迷ったら先生や先輩とじっくり話して、納得できる施設を選ぶといいと思います」とアドバイスします。

先輩の存在を支えに
一步一步成長
青木 暢

青木暢歯科医師 10期生：インタビュー日【2020年12月（1年目）】



処置回数



目標

彼女が母国に帰ってもセルフケアを十分にできるレベルに持っていく！



今、彼女は目標に向かって進んでいます
今後も定期的に経過を見ていきます



22歳
女性
スリランカ人



1年目修了式で研修内容報告を1年の成果として症例発表形式で行います。(2020.03.30)